

第 601 回 役員会 議事概要

- 1 日 時 令和 5 年 11 月 22 日 (水) 9 時 30 分～10 時 11 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 構成員 7 名：
牛木学長，川端理事，坂本理事，澤村理事，末吉理事，西田理事，
塚本理事
陪席者 3 名：
富田特命理事，田代監事，逸見監事

5 報告事項

(1) 医歯学総合病院診療実績（令和 5 年 9 月分）について

富田特命理事から医歯学総合病院診療実績（令和 5 年 9 月分）について、資料 1 に基づき報告があった。

（主な意見及び質疑等）

- 単価が高額な薬品については、本学だけでの問題ではなく、日本全体や厚生労働省の問題でもあると思うが、こういったことに関するワーキンググループや審議会などは立ち上がっているのか伺いたい。
- ワーキンググループ等については、現在は全くない状況である。
- 中央社会保険医療協議会の実務者会議等においても、高額な薬品を使用する診療等については大学病院任せになっている状況であり、大学病院としての状況を説明しながら高額医薬品取扱加算に関する要望を行っているが、なかなか難しい状況である。
- 今後、標的薬のように高額な薬品が多く出てくると思うが、現状はまだその始まりの段階であり、誰もよく分かっておらず、大学病院でしか対応ができない状況なのだと思う。これからどうアピールしていくかということが重要だと思う。
- 国立大学病院長会議や、他の国立大学の団体等が議員連盟などに早期に働きかけていく必要があると思う。
- 国立大学病院長会議等で話を出しているものの、代議士などからは、もっと強力に動いていく必要があるという意見も出ている。本院として対応できることは限られてしまうが、執行部とも相談しながら、できる限り努力していきたいと思っている。なお、国立大学病院長会議も議員連盟と話し合いを行っているようであるが、なかなか国民の理解が得られていない印象である。
- 少なくとも、診療報酬を下げるという大きい流れと今回の高額な薬品の内容というのは、切り分けて考えていく必要があると思う。
- 議員連盟も大学関係では文部科学省が関与することが多いが、本件は厚生労働省が関与する内容であり、その点での温度差があると思う。本件は教育、研究の話でもなく、薬価も含めて、厚生労働省の管轄であると思うので、大学病院がやらなければいけない部分が微妙な状況であると感じている。

(2) 令和5年度「日本型大学成長モデルの具体化及びそれを支える大学経営人材の確保・育成に係る実証事業」(第2期 PEAKS 実証事業)の採択について

川端理事から令和5年度「日本型大学成長モデルの具体化及びそれを支える大学経営人材の確保・育成に係る実証事業」(第2期 PEAKS 実証事業)の採択について、資料2に基づき報告があった。

(主な意見及び質疑等)

- ・順調に少しずつ進んでいるように思うので、エキスパート人材の位置づけの整理がどう進んでいるかなども含めて、役員ミーティング等で報告してもらえると良いと思う。
- ・全学連絡調整会議でも中間報告として、進捗状況等を伝えて行きたいと考えている。
- ・教育に関しても、UEAなどの人材が必要であると感じているが、このUAのキャリアパスについては、うまく想像できない部分があるので、ぜひ検討していただきたい。
- ・エキスパート人材の位置づけなども含めて、どういった話が進んでいるかということ報告してもらうことで、漏れている部分や、違う目線からの意見等も出てくると思う。
- ・エキスパート人材の位置づけ考えていく上で、事務職もどういったゴールを持つことになるのかという話も同じように生じてくると思う。そういったことも含めて、どこで悩んでいるのかということも共有、相談をしながら進めていきたいと思う。

(3) 新潟県産学連携促進事業補助金への申請結果について

(4) 令和5年度資金運用状況(上半期分)について

(5) 令和5年度事件・事故及び苦情報告(上半期分)について

報告事項の(3)、(4)及び(5)については、口頭による説明は省略し、役員において資料3、資料4及び資料5を確認した。

(主な意見及び質疑等)

- ・資料5について、コロナ禍ということもあり、留学生に対して各種講習会が開催できていなかったため、今月に留学生向けの講習会を行い、注意喚起を行ったところである。